



手作り門松で今年も良い年に

クリスマスリースと門松を手作りする「みんなで迎えるクリスマスとお正月」が、12月10日に朝日少年自然の家で開催されました。町内の小学生では、諏訪原の最上和香さん、黒川彩葉さん、黒川一葉さん（写真左から）が参加して門松作りに挑戦。のこぎりで竹を切るのが大変だったそうです。苦勞して作った門松だけに、今年も大きな幸せを呼んでくれそうです。



平成29年

1

No.671

新春のごあいさつ

明けましておめでとうございます。旧年のご厚情とご指導に感謝申し上げます、新しい歳にも、ご指導賜りますようお願い申し上げます。明るい力が持てるような時間の多い年でありますようご祈念申し上げます。

町民のご支援を受け、大江中学校の生徒諸君がアメリカ合衆国モンタナ州を訪問しました。「ぶくらす」の展示室で、研修前後の学習も含めた内容を見せていただきました。「かわいい子には旅をさせよ」という言葉通りの、自分以外を見て、他国を見て、違う言葉に接して、「ものの見方」の新しい発見がぎゅっしり詰まった内容のある報告でした。出掛けた生徒と、送った町民の高い誇りを感じる事ができるものでもありません。若い諸君の今回の訪問は、大江町に将来咲くであろう見事な大輪の花の「元肥」に……期待は大きく膨らみます。

2力年の時間を要しましたが、中

央公民館「ぶくらす」が完成いたしました。杉の柱は90年間風雪に耐えた見事な大木であります。材木地区の先人が、後世に思いを寄せて植育樹され、大江町に寄贈されたものであります。「今だけ」で生きてこなかった先人の証が、図書館を支える大黒柱になっています。山と川が近くにある大江町での豊かな自然体験が、新しい図書館での学び合いと重なり、「知行合一」を可能にする、「暮らし愛」・「学び愛」・「遊び愛」の「ポイントぶくらす」として、大いに町民の魂を吹き込んでいただきたいものであります。

「子どもは緑の木陰で育ち、紳士は校庭でつくられる」——先哲の声は羅針盤・コンパスとして、将来の日本を担う「子育て支援」の方向性を示しています。広い道路に隣接し、近隣市町村に負けない広大な園庭・遊び場を可能にするわかば保育園——工事が始まり、数十年もの間



やまがた地鶏食鳥処理施設



やまがた地鶏の雛

西



大江町長 渡邊兵吾



わかば保育園運動会



本郷東小学校
「くろべえなすの日」給食交流会



中央公民館・町立図書館
「ぶくらす」オープン

の検討結果が、形になろうとしています。時代はゼロ歳児保育・時間延長保育……多くの支援を求めています。将来の大江町を担う子どもたちのために、保護者、町民各位のご協働のもと、2カ年での完成に向かってまいります。

念願の「大江西川線の完成」が2歩、3歩と近づいています。12月26日に塩地橋と岩井堂橋の開通完成式がおこなわれ、すでにもう一つの橋の工事も始まっています。貫見・沢口間の危険な道路の解消は、永年の町民の悲願でありました。柳川温泉、朝日連峰、豊かな山林資源へのアクセスとして、多様な夢の実現を可能にするものであります。田ノ沢から大頭森トンネルまでの狭隘な曲がりくねった山岳道路の完成を目指す運動の始まりと考え、町民一同の思いの実現に向かいたいものであります。

「東京一極集中」に危機感を感じた日本国は、「地方創生」の国構えを画し、国土の基礎を支えてきた「地方」に光を見いだし始めています。地方創生先行型交付金を活用して寒河江市でおこなわれた、山形県の「雪まつり」などの事業がすでに展開されています。旧きらやか銀行の利活用も、具体的な姿が見え始めていま

す。地方と都会のつながりが問われ、「都会だけ」で国の豊かさが保てない時が流れ始めています。地の利をとらえ、先を読み、いかにして「明るく広げて、強くつながっていくか」、地方で生きていくことと、都会で生きていくことに、同等の価値があるという思いの共有が果たせるか否か、田舎での新しい生き方の萌芽は、もう始まっています。山形県内35市町村の中で人口の社会増の4つの市町村のひとつが大江町、町民の心意気なかりせば、「思い」あれば、「事」は確実に一歩前に進む——実感であります。

町としての大江町は、58歳、もう少しで還暦を迎えます。「用」地区からは「大海牛」の化石、「橋上」からは縄文中期と平安時代の遺物と遺構、柳川温泉近くからも、縄文後期の石器、左沢楯山の中世の山城、重要文化的景観の町並み、田んぼ、畑、山々の姿……遠い遠い太古の時代から今日まで、地球の一点たるにすぎない大江町には「まち・ひと・しごと」の出自に関わる見事な線が見えています。新しい歳、線を延ばして、もう一步、「明るく広げて、強くつながり、ゆつくり、急いで、みんなの中で」。

おらだの図書館をつくる

昨年7月18日、新しい中央公民館とともにオープンした町立図書館。これまで親しまれてきた図書室から大きく装いを変え、西山杉の温もりと柔らかな雰囲気包まれながらゆつくりと読書や学習ができる空間が生まれました。開館してからの来館者数は、12月上旬には約1万4千人に到達。子どもからお年寄りまで、あらゆる年代の町民の皆さんに利用が広がっています。

今回は図書館が大好きな5名の方々に、より多くの皆さんに親しんでもらえる「楽しい図書館」をつくるためのアイデアについて、渡邊町長と語り合っていました。

待望の図書館は 明るくて開放的

町長 今回の座談会のテーマは、できたばかりの町立図書館をどのようにして町民全体のものにしていくかということ。皆さんのお話を通じて、町民の皆さん一人ひとりに関心を持ってもらい、本に親しんでもらえるようになってもらえればと考えています。まずは、この図書館の雰囲気や利用してみても感想などを

聞かせてください。

太田さん 西山杉で作られているので、木のぬくもりが感じられ、明るく開放的で、落ち着いた雰囲気で読書ができます。西山杉は他の木と比べて色が良いので、本と合っていると思います。また、システムで図書の管理がきちんとされている点も良いです。

伊藤さん 私も、図書館に入った瞬間「すごく明るいな」と感じたのが第一印象でした。今まで図書館で勉

強する習慣のなかった友達も、受験を控えて「図書館に行きたい」と言うようになりました。そういう環境の整っている素晴らしい図書館だと思います。以前の図書室と比べて個人用のスペースが増え、参考書なども置いてあるので、とても勉強しやすいですね。

海野さん 私はいろいろな調べものや作業をするために、オープン直後からこの図書館を利用しています。冷暖房設備が整っているので、夏で

も冬でも集中して作業ができますね。最近ではほぼ毎日のように来ています。

菊地さん 以前の図書室も学生の時によく利用していたのですが、本が見えにくくて目的の本を探すのが大変なことがありました。高さのある本棚が並んでいたもので、圧迫感もありましたね。この図書館では本棚の高さも工夫されていて、本がよく見えるように配置されているので、利用する方も表紙などの見た目で本を手



取りやすいのではないでしょうか。
上田さん 以前から「図書館」ができてほしいと思っていたので、十分な広さのある図書館になってとても嬉しく思っています。図書館の整備にあたっては、図書館をどのようなものにしたかを考える「みんな語りろう おらだの図書館」という会がありました。その中で、メンバーの皆さんと一緒に「こんな図書館になったらいいな」という提案をいろいろとしてきました。その希望をたくさん取り入れていただいて完成した待望の図書館なので、ここに来るのが毎回楽しみで仕方がありません。読みたい本がある時は職員の方がすぐに対応してくれるので、本館に利用しやすい図書館になったと思います。

現実を飛び越える 本の世界の楽しさ

町長 「本を読む楽しさ」とは、皆さん何だと思えますか？

伊藤さん 現実ではありえない世界に連れて行ってくれることででしょうか。現実では自分の生き方しか経験できないですが、本を通してほかの人の人生や世界を体験することがで

きますし、そこで初めてわかることや考え方が変わることがありますね。

太田さん 自分が主人公になったつもりで本を読み進めていくことで、物語がどんな展開になっていくかを想像する力や、感性が高められることだと思います。また、本を読むことでいろいろな角度から考え方を学ぶことができるのも楽しいです。

菊地さん 非現実的なことを表現できることが、本の一番の魅力ではないでしょうか。本を通して、実際には体験できない世界の中に浸るだけでも良いものですし、自分が期待していた展開が裏切られたとしても、それもまた面白さのひとつだと思います。登場人物の性格などを客観的に見られるのも、本の楽しいところですね。

上田さん 私は夜寝る前によく本を読みます。その日嫌なことがあったり、悩んだりしていた時でも、本を読んで非現実の世界に行くと、気分転換になってゆっくり眠れるんです。私にとって、一日の疲れを取ってくれるのが本ですね。

海野さん 私が一番良く読むのは技術書やビジネス本です。新しい知識が自分の中に入ってくる感覚が心地



伊藤梨生さん (小見)

山形市立商業高校3年生。テスト勉強などをするために図書館をよく利用しており、10月4日に1万人目の図書館来館者として記念の花束が贈呈された。

お気に入りの1冊：
『図書館戦争』 有川浩著



菊地真由美さん (5区)

公立高校で学校司書として勤務。「みんなで語ろう おらだの図書館」のメンバーとして、町立図書館の立ち上げに協力し、現在「おおえ図書館倶楽部」会員。

お気に入りの1冊：
『賢者の書』 喜多川泰著



太田将平さん (9区)

大江中学校3年生。図書委員長として、全校生徒が年間1人10冊本を読むという目標の達成に向けた取り組みをおこなっている。

お気に入りの1冊：
『へんな日本語』
市野桂子著



上田さゆりさん (7区)

町の図書協力員や、読み聞かせサークル「くすのき」での小学生への読み聞かせなど、町の図書館の充実と読書の推進に長く携わる。「おおえ図書館倶楽部」会長。

お気に入りの一冊：
『アルジャーノンに花束を』
ダニエル・キイス著

気軽に立ち寄って ほっとする空間に

町長 皆さんは、これからどんな図書館にしていきたいですか？

太田さん 本の読み聞かせなどで町民みんなが集まれる憩いの場になってほしいですし、小学生や中学生、高校生が教え合いや学び合いができる場所になってほしいと思っています。

上田さん 中学校でも読み聞かせをしてみてもいいでしょう。小学校低学年の読み聞かせでは絵本が中心な

良いですね。今まで分からなかったことについて考えて、納得できたその瞬間、自分が少しだけ広がったような気持ちになります。

町長 最近は本をじっくり読むことがなかなかできないので、拾い読みや斜め読みをしてみようのですが、それもまた楽しいものです。課題などで行き詰まった時に、別の世界を頭の中に入れてたいので、その方法として本を開くことが多いです。時には、本棚に並んだ題名だけを見て「この本にはこういうことが書いてあるんだらうな」と想像してその世界に入っていくこともあります。

のですが、高学年になると絵は見せずに文章だけを読んで聞かせるようにしています。中学校でも同じような形でできれば良いと思うのですが、どうですか。

太田さん 自分で文章を読んでいると自分の思いしかわかりませんが、ほかの人が読むのを聞くことで、違った考え方もあるということが感じられるようになるかもしれないので、良いことだと思います。

菊地さん 静かな図書館もいいのですが、小さな声で話せるような、アットホームな雰囲気があってもいいと思います。人がいつもいて、ここに来れば誰か話し相手がいるという、安心感のある図書館が理想ですね。

町長 私の学生時代には、図書館というと国家試験を受ける学生たちが猛勉強をされていて、入りにくかったのを覚えています。ときどき小声で会話が聞こえるような雰囲気のほうが、落ち着く気がしますね。一人でいるよりも、多くの人が集まってきて自分もその一員だと思えると安心するものです。

伊藤さん 以前と比べて、小学生や中学生がたくさんいることに驚きました。この図書館は明るくて、話しやすい雰囲気があるからこそ小さい



海野秀祐さん (藤田)

東京で会社員として働いた後、大江町に戻りIT関連事業の立ち上げを志す。現在、その準備作業の場として図書館を頻繁に利用。「おおえ図書館倶楽部」会員。

お気に入りの1冊：
『新世界より』 貴志祐介著

子どもも来てくれるんじゃないかと思えます。これからもっとこういう雰囲気がつくられると良いですね。
海野さん 今の図書館で百点満点だと思います。あえて付け加えるとしたら、ここに来て何かをしたくなるような、そんな空間を作っていた方がいいですね。

町長 海野さんから百点満点をいただきましたが、完璧なものを目指して作ろうと思っても、またどんなに素晴らしいものを作ったとしても、百点満点をもらえることはなかなかないものです。私は今の図書館が満点だとは思っていないくて、利活用の仕方なども含め、作り変えていくべき部分はまだあると考えています。でもこうして実際に図書館を見てみると、現時点では素晴らしいものができたと思えますね。

上田さん 私も菊地さんがおっしゃったように、ほっとできるような場所が良いですね。静まりかえって歩いて抜き足差し足で歩かなければいけないような雰囲気だと、息が詰まりますし、自由に本を選ぶことも気後れしてできなくなってしまう。話し声や小さな子どもの笑い声が聞こえるような、温かみのある図書館になってほしいです。

いつまでも愛される 図書館を目指して

町長 皆さんは、今後図書館にどのように関わっていききたいですか？

菊地さん 「おおえ図書館倶楽部」の会員になってるので、定例会などには必ず参加したいです。また、私の同年代だと公民館にわざわざ来るといふ人が少ないので、新しい図書館ができたということを、友達などにもっとPRしていききたいと思えます。

町長 図書館で同級会をするというのはどうですか。お盆あたりに同級生を集めて、みんなで本でも読んでみようというのは。

菊地さん それは良いかもしれないですね。

町長 「おおえ図書館倶楽部」の皆さんが関わり合ったきっかけというのは、どういうものだったんでしょうか。

上田さん 「みんなで語ろう おらだの図書館」の役割は、本来は図書館の完成までという予定でした。でもせっかくなので力を合わせて良い図書館ができたので、またこの図書館と一緒に盛り上げていきたいということ。「おおえ図書館倶楽部」



ができました。その立ち上げの時に、今後やってみたい活動のアイデアがたくさん出てきました。自分たちが楽しんで活動すれば、それを見ている皆さんが「楽しそうだなあ」と思っ

て、図書館に来てくれるようになるのではないかと思います。中学生や高校生など、若い方たちにもぜひ入っていただきたいです。

町長 中学校でも、例えば図書委員会の会議を年に1回はこの図書館でやるとか、時間があればクラスごとにこの図書館で勉強するなどということはできるでしょうか。

太田さん そういう機会があってもいいと思います。

伊藤さん 町内に住んでいる高校生でも、図書館にまだ来ていない人もいると思うので、みんながもつと来てくれると嬉しいです。

海野さん この図書館は素晴らしい場所なのですが、今は利用者がまだそんなに多くないのではないかと思います。まだ利用していない方に、本がたくさんあるし、広くて明るくて暖かくて、作業をするのに最適な空間だということを伝えるようにしたいですね。

町長 そのためには、行政の役割も

大きいですね。楽しいイベントなども、もつと開けるようにしていきたいです。それから、図書館はまず本がなくては始まりませんね。これからどんな図書を取り入れていけば良いでしょうか。

太田さん ページが少なくて読みやすい本や、小さい子どもでも読めるようにきちんと振り仮名が振ってある本なども欲しいです。

菊地さん 私は小説をもつと増やしてほしいですね。本が好きなのは、現実から少し離れた人が多いと思うので、そういう本がもつとあつたら面白いと思います。

伊藤さん 町の昔のできごとなど、私たちが知らないことも多いので、そうした町の歴史が分かりやすく書かれている本があつたらいいと思います。

海野さん アンケートなどで、町民の方にどういうジャンルが好まれているかを調べてみると良いかもしれませんね。

町長 本の世界は本当に奥が深く、それは今日皆さんがお話になった内容にも表れていると思います。図書館はまだできてきたばかりですので、これからも力を貸してください。本日はありがとうございました。

1 ■ 統合保育園の整備工事始まる ～わかば保育園増築工事安全祈願祭～

町の統合保育園整備に向けたわかば保育園の増築工事の安全祈願祭が、11月28日に開催されました。式典には町や保育園、工事などの関係者が出席。渡邊町長らが鍬入れなどの神事をおこない、工事の安全を祈願しました。

増築部分の建築工事は11月から開始され、来年10月中旬に完了予定。さらに、園庭や駐車場の整備、園舎の改築工事を経て、平成30年4月に統合保育園として開園する予定です。



2 ■ 冬を安全に乗り切るために ～除雪機械安全祈願祭～

本格的な降雪シーズンを迎えるにあたり、除雪用機械の安全祈願祭が12月1日に中央公民館前でおこなわれました。駐車場には除雪ドーザとロータリーがずらりと並び、除雪にあたる事業所や運転手などの関係者が作業中の安全を祈りました。

除雪運転手の清野剛さん（市の沢）は、「運転手にはこれまで以上に技術が要求されていると考えています。安全を第一に、冬季交通の確保のため最大限努力します」と決意を表明しました。

議会

town council

第4回定例会

平成28年第4回大江町議会定例会が、12月7日から12日の会期で開かれました。今定例会では、各会計の補正予算や条例の制定、人事案件などについて審議され、原案どおり可決・承認されました。

また、冒頭に渡邊町長と犬飼教育長より行政報告がありました。

行政報告

職員採用試験について

平成29年度4月採用予定の職員については、9月18日に1次試験、10月23日に2次試験をおこない、最終的に初級行政職2人を合格者と決定して採用内定を通知しました。

教育委員会事務事業点検・評価報告書について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、教育委員会では平成22年度から前年度の主要な事務事業の点検・評価をおこなっています。今年度も、3人の評価委員の意見を伺ったうえで平成27年度の主要な事務事業についての「点検・評価報告書」を作成しました。

人事案件

固定資産評価審査委員の任期満了に伴い、三沢司氏（6区）が再任されました。任期は平成31年12月14日までとなっています。

補正予算

平成28年度一般会計補正予算（第4号）が原案どおり可決され、歳入歳出にそれぞれ6650万円を追加し、予算総額は56億840万円となりました。

主な歳出予算は、総務費として、わかば保育園の増築工事で使用するために伐採した町有林の製材費用や、ふるさとまちづくり寄附に関連する費用など、3946万円の増額。民生費として、臨時福祉給付金事業や、高齢者世帯などへの灯油購入助成事業を実施する費用など、3608万円の増額。土木費として、除雪業務委託料など、1933万円の増額となりました。

なお、衛生費、教育費などについては減額となっています。

12/4 駅前を彩る手作りキャンドル

商工会青年部主催の「ミツロウキャンドルづくりワークショップ」が、12月4日に交流ステーションでおこなわれました。このイベントは、朝日町にある「ハチ蜜の森キャンドル」の安藤竜二さんを講師に迎え、ミツバチの巣の材料であるミツロウでのロウソクづくりを体験するもので、子どもから大人まで大勢の参加者でにぎわいました。

その後、完成したキャンドルは交流ステーション前広場の西山杉製クリスマスツリーに設置されました。イルミネーションの点灯とともにキャンドルに火がともされると、柔らかな光が広場を彩り、参加者は歓声をあげて見入っていました。



11/27 お隣の仲間と心をひとつに

スポーツ少年団の児童たちが一堂に会する交流スポーツ教室が、11月27日に体育センターで開催されました。今年は、町内の5団体80人の子どもと保護者に加え、西川町のスポーツ少年団の児童たち17人も参加。正しいストレッチ方法や、チームごとに分かれてのゲームを体験しました。

「パタパタゲーム」は、チームごとに輪になって座り、時計回りに自分の膝をたたいてより早く1周することを目指すゲーム。どのチームも町とスポーツの垣根を越え、お互いにアイデアを出し合って記録更新にチャレンジしていました。



12/4 チャンスを逃さずアタック!

大江町ママさんバレーボール大会が12月4日に体育センターで開催され、日頃バレーボールを愛好する女性の皆さんが9人制ルールで競い合いました。今年で48回目となったこの大会には、6つのチームが出場。2つのグループに分かれてのリーグ戦をおこないました。

試合は各チームの連携が光る好ゲームが続き、中には10点以上の点差を逆転するドラマチックな試合も。両リーグの勝者同士の決勝戦では、本郷東チームが小漆川チームに勝利を収め、見事優勝を果たしました。



12/8 山の恵みでクリスマスケーキ

放課後子ども教室のひとつとして開かれている料理教室「ニコニコクッキング」が、12月8日に中央公民館で開催されました。この日は23名の児童が参加。地域おこし協力隊で管理栄養士の野木桃子さんが講師となり、クリスマスにちなんで木の実を混ぜ込んだチョコレートブラウニーづくりに挑戦しました。

子どもたちはクルミやブナの実を一つひとつ丁寧に殻から取り出し、チョコレートと混ぜ合わせてケーキの生地を製作。オープンで焼きあがった香ばしいケーキをおいしく味わっていました。



12/10-11 町おこしに向けて「縁」を深める

旧きらやか銀行大江支店の利活用に向けた社会実験「縁づくり大作戦」が、12月10日と11日に縁屋とふれあい会館で開催されました。このイベントでは、「みんなでまちづくり交流会」有志のメンバーが4つのチームに分かれ、手作り屋台の展示やトークイベント、そば打ち体験などを企画。地域活性化の可能性を探りました。

空き店舗を改修した縁屋の1階では、佐藤綾さん（7区）がコーヒーと過ごす休日についてトークをおこない、参加者は挽きたてコーヒーを楽しみながらゆったりした時間を過ごしました。



12/13 絵本の世界の贈り物

鶴岡市出身の絵本作家であるつちだよしはるさんが、12月13日に左沢小学校と本郷東小学校へそれぞれ自著の絵本28冊を寄贈してくださいました。この日、つちださんは左沢小学校を訪れ、2年生代表の神保悠斗くん（9区）に絵本を手渡し、児童たちがリクエストした動物のイラストをその場で描いて、児童たちを喜ばせていました。

2年生の柏倉理李さん（月が丘）は、「つちだ先生の描くキツネの絵が大好きです。今日頂いた絵本も、みんなで大切に読みます」とお礼の言葉を伝えました。



11/15 食べればわかる！やまがた地鶏

山形テレビが企画する「第17回山形ふるさとCM大賞」の公開審査会が、11月15日に山形テルサアプローズで開かれました。今年も県内35市町村のふるさとをPRする力作が勢ぞろい。本町ではプロジェクトチームを編成して制作にあたり、昨年に引き続いて町産のやまがた地鶏をテーマにしたCMを完成させ、審査会でプレゼンテーションをおこないました。

公開審査会の模様と気になる審査結果は、12月26日に山形テレビの特別番組として放送される予定です。

12/7 豪快な餅つきで新年も健康に

食生活改善推進協議会の事業のひとつとして、「男の料理教室」が12月7日にふれあい会館で開催されました。「集え！餅つき男！」と題して開かれたこの日は、臼と杵を使った餅つきを実施。参加者は青空の下で力いっぱい餅をつき、その様子を見て飛び入りで参加した方もいらっしゃいました。その後、参加者はつきあがった餅を雑煮や



納豆餅、くるみ餅などに調理し、杵でついた餅ならではの食感と味わいを堪能していました。

参加した方は「杵つき餅は何十年かぶりに食べました。今度は孫と一緒に餅つきをしてみたいです」と感想を話されていました。

思い出の

まいぞうひん

My 蔵品

皆さんの心に残る思い出の品を、それにまつわるエピソードとともにご紹介します。



私が初めてアコースティックギターを弾いたのは、中学生の時です。あの時代はギターが一種のブームになっていて、マーチンのギターと言えばみんなの憧れでした。

大学を出てからはギターをやめていたのですが、25歳の時に知人の勧めでもう一度始めることにしました。そして東京の御茶ノ水にある楽器店で買ったのが、この「マーチンD-35」で、マーチンの創業150周年にあたる1983年に作られた楽器です。歌いながら弾くのに適した音色で人気があり、プロのギタリストも使用しているモデルです。

(11区 三嶋理生)

★皆さんの思い出の詰まった「宝物」はありませんか？ 懐かしい写真、長年愛用している道具、旅先で購入した記念の品など、なんでも結構です。総務課情報システム係 ☎(62) 2187まで、ぜひお知らせください。

戸籍のまど

11月21日～12月12日受付分

お誕生おめでとう

区名	氏名	性別	父母名
3区	金子 歩果 ^{あゆか}	女	冬樹・里美
深沢	海野 千怜 ^{ちさと}	女	裕也・みき子

ご結婚おめでとう

区名・出身地名	氏名
(1区 天童市)	鴨田 康介 荒木 薫

ご冥福を祈ります

区名	氏名	年齢
9区	兼子 文男	(87)
9区	高橋とみよ	(77)
3区	菊地みき子	(78)
藤田	樋口 ふみ	(92)
蛍水	峯田 政喜	(97)
藤田	庄司健二郎	(72)
9区	菊地與一郎	(92)
小塩	清 佐竹みよの	(90)
塩野平	渡邊トキコ	(81)
9区	渡邊ミツ子	(91)
11区	鈴木 伸彦	(77)
古寺	佐藤アサヨ	(89)
貫見	茂木 重美	(82)
月布	秋元喜一郎	(68)
小見	伊藤 正子	(91)

※掲載を希望しない場合は、届け出の際にお申し出ください。



明けましておめでとうございます。新春企画では本と図書館にゆかりのある方々に急きょお集まりいただき、素晴らしいお話を聞かせていただきました。私はといえば、カバーをしたまま読んでいない本が何冊もあるので、今年は読書の時間をもっと取れたらと思います。今年もどうぞよろしく願いいたします。(伊藤智治)